

悪性神経膠腫におけるapoptosis(自爆死)誘発と抑制因子の基礎的研究

著者	立花 修
著者別表示	Tachibana Osamu
雑誌名	平成5(1993)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	1993
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00066601



悪性神経膠腫におけるapoptosis(自爆死)誘発と抑制因子の基礎的研究

Research Project

All

Project/Area Number

05771015

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Cerebral neurosurgery

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

立花 修 金沢大学, 医学部・附属病院, 助手 (40211362)

Project Period (FY)

1993

Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

Budget Amount [*help](#)

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

C6 glioma / Fas / Bcl-2 / apoptosis

Research Abstract

ラットC6 glioma cell lineに対して、Fas抗体(IgM)を加え、Cell deathの形態を観察した。Fas抗体は30ng/ml,50ng/mlの濃度で培養液に添加した。コントロールと添加直後、24時間後、48時間後、72時間後、96時間後に光顕的、電顕的、ならびにin situ nick-endolabelling法で観察した。培養細胞は浮遊したものも採取し、遠沈後、光顕的には4%PFAで固定し凍結包埋した。電顕的には2%GAで前固定し、Osmiumで後固定しLepon包埋した。また、ラットの脳内にmicroinjector

でFasを注入しラット脳の変化を観察した。C6培養細胞では、Fas添加24時間後から細胞縮小が始まり、72時間後には多数のearly apoptosisの所見を得た。96時間後には、apoptotic bodyが見られた。in situ nick end-labelling法ではapoptosisに陥った核に陽性反応がみられた。免疫組織化学的にC6にFasは発現していたが、Bcl-2蛋白は発現していなかった。ラット脳において、Bcl-2は神経細胞、microglia、perivascular cellに発現がみられた。Fasは神経細胞と一部のmicrogliaに見られた。Fas注入ラットは、1ヵ月生存しており、注入部分の神経細胞死はみられなかった。以上により、Fasはラット悪性神経膠腫の培養細胞に有効であり、ラットの正常脳にはほとんど影響がなかった。また、神経細胞もFasを有しているがBcl-2を同時に有することにより、Fasによる細胞死(apoptosis)をまぬがれると考えられた。

Report (1 results)

1993 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05771015/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21